

質 問 通 告 書

次の件について質問の通告をいたします。

令和7年8月15日

質問者氏名 塚 原 正 彦

牛久市議会議長 殿

質 問 形 式 (該当する方式に○を記入してください)	○	一 括 方 式
		一 問 一 答 方 式

質 問 事 項	要 旨
「牛久未来デザイン 2050」の策定を提案する 一若者(中学・高校生)が参画する地域未来予測ワークショップで、牛久市を公・共・私が協力し新しい富を創造する組織に変える一	我が国は、2040 年に高齢化がピークとなり、経験したことのない危機(労働力不足、社会保障のパンク、自治体消滅など)に直面している。これを乗り越えるために地方自治体は、税金を集め社会サービスを提供するサービス組織から脱却し、公・共・私が協力しながら新しい富を創造する組織(「プラットフォーム・ビルダー」)に生まれ変わらなければならない。 上記の問題意識を背景に、2050 年にまちを担う中核人材である現在の中高生と若者の参画を促し、地域社会への関心や貢献意欲を育みながらまちづくりビジョンをつくる「未来予測ワークショップ」が各地で行なわれている。 2050 年の牛久市は、人口は8万人を維持し、生活者向けの教育、福祉、医療サービスなどの分野の雇用の増大が予想されものの、国の経済力の低下と市内の介護受給者、認知症患者数の倍増などにより現在のレベルの社会サービスを維持することは困難になる。これらの課題解決に挑戦する未来予測ワークショップは、参加者に牛久市への愛着を高め、食と健康と医療をリンクした新しい学びの開発など新規事業を考えさせるための機会が提供できる。 以上の趣旨から牛久市を公・共・私が協力しながら新しい富を創造する組織に生まれ変わらせることを目的とした、2050 年の牛久市を担う中学・高校生が参画する未来予測ワークショップを提案するが考えを伺う。 ※「2040 年頃から逆算し顕在化する諸課題に対応す

	るために必要な地方行政体制のあり方等に関する答申」 (令和 2 年 6 月 26 日第 32 次地方制度調査会)
--	---

※ この内容は具体的に記載してください。